

評価項目	中期経営目標	短期経営目標 (令和7年度重点目標)	達成のための具体的方策【具体的な手立】	成果・取組指標	評価者	自己評価					達成率	成果または改善点 改善のための方策			
						A	B	C	D	?					
Ⅱ 心の保障 (生活・研究)	○開校1年目の不安を和らげる学級経営を進める。 ○人権を尊重し、いじめを許さない風土づくりに取り組む。 ○児童主体の活動・行事を行う。 ○多様な人と関わる力を育成する。 ○チャレンジ精神とレジリエンスを高める。 ○人のことを大切にしたい。	子ども理解の深化に努め、一人一人のよさを生かす。	・学期に1回の教育相談で、児童のケアを行う。 ・スクールカウンセラーとの教育相談を積極的にすすめる。 ・アンケートの分析と活用	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケート、保護者アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員						80%	○教育相談を2回から3回に増やしたことは、児童理解を深める機会は増え、よかった。 ○SCの教育プログラムを積極的に取り入れたい。→☆担任に周知する。 ○1年目で先生方もいろいろな速いながら活動で大変だと思うが、子ども達の表情やお便りから楽しく過ごしている事が伝わってきた。 ▲教育相談に時間がかかる。→教育相談週間を1週間～2週間にする。			
					児童	聞いてくれる							92%		
		保護者	楽しい							90%					
		児童	喜んで通っている							95%					
		保護者	よさを認めている							83%					
		児童	体制づくり							81%					
		教職員		・自己有用感が高まる場を積極的につくる。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員						87%	○教科や特別活動などで自己有用感が高まる場が設定してあった。 ▲審判でも校内で名札を付けるのはどうか。 ☆名札の着用が難しいため、年度当初に異年齢で名前を覚える構造的エンカウンターやレク活動を行い、自然な関係づくりを促す。		
		教職員	・一人一人の人権を尊重し、いじめや差別は許さないことと、毅然たる態度で指導する。 ○校内研修会の開催(職員) ○日常生活での指導 ・言葉遣い・話の聞き方 ・あいさつ・人間関係 ○人権学習・同和問題学習 ○人権集会、授業公開	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員							87%	▲日常生活での言葉づかいやあいさつは、まだまだ課題が残る。→☆その都度、声かけ、指導をする。 ▲保護者への啓発が充分行えなかった。→☆人権にかかわる授業公開と保護者向けの研修会の実施。 ○ミニ研修は様々な人権課題を取り上げることができ、有効であった。		
		児童	助け合い									88%			
		教職員	・学級活動において、「目指す子どもの姿」 「学習過程で目指す子どもの姿」にどれだけ到達しているか見取る。 ・学校行事においては、お祝い・振り返りシートの設定を基に子どもの実態を見取る。 ・行事に際らず、日常生活の中に行事等で学んだことを次に生かす姿を見取る。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員							87%	○学校行事では、ねらいと振り返りシートの記述を基に子どもの実態を丁寧に捉えることができた。 ○行事での学びが日常の生活場面に生かされる姿も見られ、学習と生活がつながるよい循環が生まれていた。		
教職員	・子どもを語る会の情報交換を生かす。 ・巡回教育相談等を利用し、児童理解に努める(支援の在り方、専門機関との連携)。 ・校内支援委員会を迅速かつ丁寧に行う。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員							87%	○子どもを語る会が月一回快報されたため、細かく迅速に共有された。→☆職掌や職員会議で小規模の子どもを語る会を実施する。 ▲早期に校内支援委員会を開催すべき。 ☆次年度も、職掌や職員会議の中で小規模の子どもを語る会を取り入れ、日常的に情報共有できる体制をつくる。 ☆校内支援委員会を5月中旬と10月に設定し、にこさボや通級の利用状況を事前に確認・見直す機会とする。また、年間を見通した校内支援委員会計画を作成し、必要な支援を速やかに検討できる体制を整える。				
教職員	・心の教育を基盤とする道徳教育を実践する。 お世話になった方に感謝の気持ちを手紙で伝える。	教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員							80%	○陸上練習や大会で頑張っていた5・6年生に対して、4年生がその努力を黒板に書いて伝えたり、5年生が6年生の頑張りを手紙にまとめて渡したりする姿が見られた。異学年の子ども同士が互いの努力を認め、感謝や励ましを自然に表現する温かい関係づくりが進んでいる。				
児童	あいさつ								75%						
児童	整頓								85%						
児童	勤務奉仕									90%					
Ⅲ 健康の保障 (生活・教務)	○年間を通した体力づくりを推進する。 ○教科体育を充実させる。 ○児童会を軸にした体育的行事を推進する。 ○早ね、早起き、朝ご飯を徹底する。 ○食育に関する指導を推進する。	子どもたちの生活リズムの向上に、家庭と連携して取り組む。	・スマイルチャレンジ等を活用して、子ども達の生活習慣やメディア接触について啓発や指導を行う。 ・学校保健委員会の実施 ・スマイルチャレンジの活用(横田地域)	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケート、保護者アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員							60%	▲取り込みデータの活用ができていなかった。→☆お便りや個別指導で積極的に活用していく。 ▲児童が実施したことに対して、職員が支援や指導することが充分ではなかった。 ☆結果をもとに個別指導や集団指導を行っていく。 ☆課題を委員会に共有し、児童の視点から改善策を考えて実践につなげる。また、児童が行った活動の結果をもとに、個別指導や集団指導を計画的に行う体制を整え、主体的な学校づくりを促進する。		
					児童	生活習慣									70%
					保護者	生活習慣									84%
		教職員	めあてをもった体力づくりの充実を図る。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価70%超をめざす。	教職員							60%	○ロードレースの取組がよかった。 ▲健康の保障に関して、体育主任としてできてきたことが少なかつたように感じたため、改善していきたい。 ☆ロードレースで得られた成果を生かし、体育の授業や短期間の取組の中で体力づくりを計画的に行い、その内容を体力向上計画に位置付ける。 ☆日常の運動の様子を見取り、必要に応じて個別・学年への支援や指導につなげることで、健康の保障に向けた体育主任としての役割を強化する。		
		児童	体育好き									86%			
		教職員	・食育の指導(食育ノートの活用)と栄養指導を行う。	栄養教諭による指導を全学年実施する。	教職員							87%			
		教職員	食事のマナーやバランスのよい食事についての指導を徹底する。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員							86%	○栄養教諭と連携して、学期ごとに給食指導に来てもらうことができた。 ☆交流給食を定期的に行う。 ☆年度当初、低学年の給食指導に入る人員を決めておくべき。 ☆地域講師や食のノートを活用した食に関する指導を継続して行っている。		
		児童	好き嫌い									72%			
		教職員	学年に応じた子どもの衛生意識を高める。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価90%超をめざす。	教職員							67%	○各学年で声かけ、指導をしてもらった。 ▲廊下に設置してあるトイレペーパーは便利だが、授業中に鼻をかみに離席する児童が気になる。可能な限り自分でティッシュを持ってきて、自席で対処してほしい。 ▲手洗いが不十分。ハンカチを持ってきていない児童がほぼ決まっている。→☆委員会呼びかけ。学級での保健指導、個別指導を行う。 ☆各学年での声かけ・指導を継続しつつ、年度当初にハンカチ・ティッシュの持参やトイレペーパーの使用ルール(給食時・緊急時のみ)を明確に指導する。 ☆手洗い不足や持ち物の未準備が見られる児童には、委員会での呼びかけ、学級での保健指導、個別指導を組み合わせて改善を図る。		
		児童	手洗い									95%			
教職員	・毎月15日に安全点検を実施し、安全な環境整備に努める。	教職員自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員							87%					
教職員	・バス通学児童の乗車時や乗車中のマナー指導とバス下校児童の把握を行う。 ・避難訓練を通して、安全意識を高める。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 児童アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員							80%					
児童	交通ルール									94%					
教職員	・安全な下校指導の徹底、呼びかけ ・PTAとの連携による環境整備	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。	教職員							80%					

評価項目	中期経営目標	短期経営目標 (令和7年度重点目標)	目的達成のための具体的方策 【具体的な手立て】	成果・取組指標	評価者	自己評価					尺度	成果または改善点 改善のための方策	
						A	B	C	D	?			
IV 開かれた学校づくり (総務)	○つながりに振る教育課程を編成する。 ○幼・小・中・高・専との連携を図る。 ○ふるさと教育を推進する。 ○地域に出かけて体験活動を行う。 ○ひまわりのことを探究する学習を充実させる。	授業公開をはじめ学校公開行事等の告知を早めに行い、その機会を充実させる。	・教育活動の状況を積極的に情報公開する。(学校だより、学級だより、ブログ、PTA総会、授業公開、学級懇談、アンケート)	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 保護者アンケート、関係者アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員						80%	▲電話対応の際に職員が名乗らないことがあり、誰が応対したか分かりにくい場面があった。☆電話対応時には必ず名前を名乗ることを徹底し、応対者が明確になるようにする。 ▲電話回線が1回線のみのため、混雑時に対応が遅ることがあった。→ ☆電話回線の増設が難しいため、来年度導入される次席連絡アプリの活用をさらに促進し、電話集中の緩和を図る。	
					保護者	情報提供							91%
					地域	情報提供							100%
	○つながりに振る教育課程を編成する。 ○幼・小・中・高・専との連携を図る。 ○ふるさと教育を推進する。 ○地域に出かけて体験活動を行う。 ○ひまわりのことを探究する学習を充実させる。	地域への情報発信と地域の方との情報交換を積極的に行う。	横小教育を語る会、教育振興会を定期的に開催する。 ・心を込めて、電話や訪問の対応する。	教職員の自己評価で肯定的評価80%超をめざす。 保護者アンケート、関係者アンケートで肯定的評価80%超をめざす。	教職員						93%		
					保護者	要望への対応							84%
						連携							83%
					電話対応						87%		
	地域	連携						100%					
	○つながりに振る教育課程を編成する。 ○幼・小・中・高・専との連携を図る。 ○ふるさと教育を推進する。 ○地域に出かけて体験活動を行う。 ○ひまわりのことを探究する学習を充実させる。	幼児園・中学校・高校・専門学校との交流活動を積極的に行う。	・かけはしの会、幼小連絡会等を生かしながら、継続的な情報交換(子どもや家庭状況)を行う。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						80%		○幼児園、児童クラブと連携することができた。相談しやすく、また、交流活動も受け入れてもらったので、非常にありがたい。
		同じおいでで、よく学び心豊かでたくましい横田の子を育成する。	・来年度のコミュニティスクールに向けた取り組みを行う。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						73%		▲コミュニティスクールに向けた準備は進んでいるものの、教職員への情報共有や意図の浸透が十分ではなく、学校全体としての共通理解がまだ不十分な面がある。 ☆5月の開始に向けて、教職員に対してコミュニティスクールの目的や運営の流れを丁寧に共有し、共通理解を図る。また、学校内外への情報発信を進め、協力体制を整えながら、立ち上げ後も円滑に運営できるよう準備を進める。
V 信頼される教職員(生活・教務・研究・総務)	○教職員の働き方改革、業務改善	19時までには退勤する。(教職員の割合の目標値80%)	・19時までには退勤する。(教職員の割合の目標値80%)	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						60%	○委員会からのタイムカードデータをもとに分析した結果、12月は19時までの退勤率が高く働き方改革の成果が見られた。 ▲一方、4月は長時間勤務が常態化しており、業務の偏りや年度初めの負担が課題である。 ☆今後は業務の標準化・分散化、会議の効率化、ICT活用を進め、全教職員が安定して19時までには退勤できる体制を整えていく。	
		ICT活用による校務の効率化を図る。(ペーパーレス会議等)	・教職員向けに、ツール活用術やデジタルリテラシー向上のための研修を定期的に実施する。 ・学校内にICTリーダーを設けて、困ったときの相談窓口として機能させる。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						87%		
		会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・職員会議の年間計画を事前に共有し、準備を促す。 ・内容に応じて、サイボーズを活用する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						80%	○職員会議の年間計画を事前に共有し、準備を促すことができた。 ○年間計画があることで、各担当が見通しをもって準備に取り組みことができ、会議運営の効率化につながった。	
		会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・内容に応じて、サイボーズを活用する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						80%	○内容に応じてサイボーズを活用することで、情報共有が迅速になり、職朝や職員会議の時間短縮につながった。 ○必要な資料や連絡事項が事前に確認できるため、会議中の説明時間が減り、効率的な運営が可能となった。	
		会議、研修等の回数の必要最小限及び短時間化を行う。	・タイムキーパーを決めて時間管理を徹底することで、発言の重複や脱線防止を図る。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						73%	☆会議資料や連絡事項はサイボーズで事前共有し、会議中の説明時間を削減する。 ☆議題の優先順位を明確にし、重要度の高い案件から扱うことで、会議の効率化と時間内終了を徹底する。	
		快適な職場環境を創造する。(整理・整頓・清掃)	・職員室や共用スペースに対して、簡単なチェックリストを作成(例:机上の書類は不要なものを取り除いているか、備品は定位置にあるか等)	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						53%	○主任や校務技士のおかげで、共有スペースが使いやすくなった。 ▲機密文書や個人情報保護の観点で児童が職員室内に入ることにはよくないのではないか。 ☆児童が職員室内に入らなくてもよい動線を確認し、個人情報保護と安全管理を強化する。 ☆職員室入口に掲示している「来室の仕方」を、児童・教職員双方に定期的に周知し、全員が同じルールで対応できるようにする。	
		授業を大切にす。(開始終了時刻を守る、知的で楽しい授業を創る、ICTを活用した授業、個に応じ選択できる授業)	・書籍・教材・物品の中で不要になっているものを思い切って処分する(毎月20日)を設ける。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						40%	☆毎月20日の実施が難しいため、学期末の「整理週間」や職員会議後の短時間整理など、実施しやすい形で不要物の整理を進める体制を整える。	
		○学び続ける教職員集団35人の授業改善、チーム対応	子どものことを最優先する。(小さな声に耳を向ける、子どもの力を信じる、子どもの人権や尊厳を大切に)	・評価の際は「○○ができた」だけでなく「○○に取り組んだ姿勢」を言語化していく。 ・行事・掲示・ルールづくりなどに児童が提案・決定に関われる場を設ける。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。 教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員 教職員						93% 80%	
		仕事を一人で抱え込まないよう、連携と協働を常とし、組織で対応する。	・業務内容を明確に分担しつつ、この領域は○○先生に相談OK!という役割認知を共有する。	教職員自己評価で、肯定的評価80%超をめざす。	教職員						87%		

○6年生の音楽の授業が月(振替休業日)、金曜日(修学旅行、児童総会、たたら、音楽鑑賞会、公開授業、学年閉鎖等)にあるため、かなり欠時が出た。今年度は仕方がないが、次年度以降、担任外の授業が週に2コマ以上ある時には月・金にならないようにしたほうがよいと思う。→教務

○働き方改革の観点から2点お願いします。①各学年で行ってきたことなど、データで保管してあると良いと思います。例えば実施計画書、作成したプリントなど。新年度の新しい担任さんはとても助かると思います。個人フォルダと担任さんは学年フォルダがあるとよいと思いました。②電話対応についてです。勤務時間より、早く学校に来て仕事している場合、電話が朝からなり、電話対応を行うのにとても困ります。電話をとる時間を決めてもらえると働きやすいです。また、朝の電話対応も日直が8時までは基本対応するなど、みんなが平等になるようにしてもらえると良いかと思います。保護者の方にも何時から何時まで電話に出ることができます。と伝える必要はあると思いますが。→総務

○個人懇談の件ですが、児童数が多いと担任は、負担になります。間で休みがとれるような、懇談設定にすると良いと思います。→教務部

○朝の会の時間が短く、歌を歌う時間がありません。→教務部

○生活時程の見直しが必要かと思えます。集会があるときには、時間がオーバーすることがあるので、集会時程を作成するなど、一時間目の授業が40分になることも多いので、45分とれるようにしてもらいたいです。→教務部

○職員朝礼がかなり、長引くことがあります。サイボーズでよいことは、サイボーズのみで周知するなど、工夫が必要かなと思います。→総務部

○子どもたち同士がまだまだ名前を覚えていないように思いました。(名前を知らなくても遊べる、話せる関係性は良いとは思いますが。)→生指部